

ピックアップ★

虐待に苦しんでいる 子どもを見逃しません

～教員向け児童虐待対応リーフレットを改訂～

平成25年に作成したリーフレットを今年2月に改訂し、公立学校などの全教員に配布しました。
その内容の一部を紹介します。

児童虐待の発見のポイント

児童虐待は、以下の4つに分類され、これらは単独ではなく、重複して現れることもあります。

身体的虐待 (暴力、やけどなど) 不自然な傷・あざが見られる
 けがなどの理由の説明が不自然である など

性的虐待 (性的強要など) 身体接触などを異常に怖がる
 着替える時に不安な様子が見られる など

心理的虐待 (脅迫、無視、差別など) 極端な体重の増減が見られる
 攻撃的な言動が見られる など

ネグレクト (育児放棄など) 体や衣服が不潔な状態である
 給食などに対して異常に執着する など



学校現場は、児童虐待を発見しやすい場です。
全ての教員が、虐待の発見のポイントや、虐待の兆候をつかんだ際の対応の流れを熟知することが、被害にあって
いる子どもの早期の保護や支援につながります。

学校で虐待の兆候をつかんだ際の対応の流れ

- ① 校長・教頭などへ報告
※緊急を要する場合は、直ちに児童相談所へ通告
- ② 情報の収集(子どもとの対話、観察、家庭訪問 など)
- ③ 関係機関などとの情報共有と現状把握
- ④ 市町村の福祉担当部局などへ通告(相談)
- ⑤ 児童相談所による保護・学校による支援策の検討

児童虐待対応リーフレット
「児童虐待から子どもたちを守るために」は ▶
こちらに掲載しています。



身近で虐待を受けたと思われる子どもがいたら

いち はや く お近くの児童相談所につながります。
・電話は匿名で行うことも可能です。
・連絡者や連絡内容に関する秘密は
守られます。

☎ **189**

あなたの電話で救える子どもがいます

●問い合わせ: 義務教育課 027-226-4612

ピックアップ★

子ども読書のすすめ



子どもの頃に読書の習慣を身に付けることは、生涯にわたる
財産となります。そのため、家庭や学校での子どもたちの読書
に対する興味や関心を引き出す取り組みが大切です。

どうして読書は大事なの?

ネット上にあらゆる情報があふれ、簡単に手に入れることができる時代。どうして「読書」なのでしょう?

子どもは読書をすることによって、読解力、集中力、想像力、思考力などさまざまな能力を身に付けることができます。これらは、ネット上の情報を拾い読みしているだけでは決して身に付かないものです。

子どもたちの読書の実態は...

1カ月の間に1冊も本を読まない子どもの割合(不読率)は、年齢が上がるに従って高くなっています。読書の習慣を身に付けるためには、未就学期から成長段階に応じた取り組みが必要です。

1カ月に1冊も本を読まない子どもの割合【全国】

小学生	8.1%
中学生	15.3%
高校生	55.8%

テレビやゲーム、スマートフォンなどのメディアに触れる時間を減らして、
読書の時間を増やしましょう。

第64回学校読書調査(公益財団法人全国学校図書館協議会、毎日新聞社)

学校での取り組み例

● ビブリオバトル

発表者が読んで面白いと思った本を紹介し、その発表についての意見交換を行います。全ての発表終了後、どの本が1番読みたくなったかを参加者の多数決で選びます。生徒集会などの場で取り組む学校もあり、ゲーム感覚で楽しみながら本への関心を高めます。



ビブリオバトルの様子(昭和村立昭和中学校)

家庭での取り組み例

● 家読(うちどく)

家族で同じ本を読んで感想を言い合ったり、親が子どもの頃に読んだ本を薦めてみたりします。家族のコミュニケーションツールの1つにもなります。



「NEWS」 群馬県民の読書活動の推進に関する条例が、今年4月1日に施行されました。県は子どもから大人まで、全ての県民の読書活動を支援する環境整備を推進していきます。



条例について詳しくはこちらをご覧ください。

●問い合わせ: 生涯学習課 027-226-4662